教育

# みかわ

第129号

副会長挨拶
三教研に望むこと
研究校紹介（知立支部）
私の研究（豊田支部）
教室の窓から（碧南支部）
支部トピックス（豊橋・安城支部）
学校自慢（北設・幸田支部）
研究大会の報告
授業力養成講座
教育随想

三河教育研究会　令和２年３月１日

# 自分で自分のことを教育する

三河教育研究会　副会長
岡　田　　守

小学校の新学習指導要領完全実施が、目前に迫っています。その翌年には、中学校の新学習指導要領も完全実施されます。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められ、小学校英語の導入やプログラミング教育、道徳教育をはじめとする新たな取組にも配慮しなければなりません。義務教育九年間の教育に携わる私たちにとって、大きな節目となる時期と考えられます。

翻って、子どもたちにとってこの学習指導要領の改訂はどのように受け止められるのでしょうか。自分たちが小中学生の頃、きっとどこかで改訂があったはずですが、記憶にある人はまずいないと思います。つまり、子どもにとっては、授業内容や時間数に変化はあるものの、学校が学習や運動を楽しみながら学ぶ「学びの場」であることに変わりはありません。そう考えると、私たち教師がこの改訂にどう対応すべきかは、自ずと見えてくると思います。

年末に、元大リーガーのイチローさんの少年野球の子どもたちに贈った言葉が話題になりました。その中で、印象に残ったのが次の部分です。

「（前略）みんなに伝えたいのは、先生たちから教えてもらう大切なことはいっぱいある。みんなが謙虚な気持ちで先生を尊敬して、先生の言うことを聞いてもらいたいのだけれど、なかなか厳しく教育することは難しいみたいなんですね。中学、高校、大学は社会人になる前に経験する大切な時間。そこで自分自身を自分で鍛えてほしい、というふうに考えています。厳しく教えるのに難しい時代に、誰が教育するのか。最終的には、自分で自分のことを教育しなければならない時代に入ってきたと思う。（後略）」

終業式でこの部分を引用して、生徒に話をしながら、「自分で自分のことを教育する」ということは、私たち教師にも必要であり、大切なことだと改めて感じ、感銘を受けました。

私たち自身が自己研鑽を重ね、教師としての自分を磨き上げていくことと新学習指導要領の趣旨を正面から受け止め、これからの教育を進めていくこととは同じです。それが、子どもたちが学校や社会で楽しく学び、健全に成長していく姿につながってくると信じています。

# 三教研に望むこと

## 三教研の姿勢

蒲郡市立形原北小学校
田　中　佳代子

蒲郡市は、平成二十九年度に愛知県小中学校音楽教育研究大会を開催しました。この県大会を三河で初めて行ったのは？と「音楽部会の歩み」を紐解くと、昭和三十九年度の豊橋市でした。蒲郡開催は、昭和四十三年度の蒲郡南部小が最初で、次は昭和四十七年度の形原小・形原中でした。以来、四十五年ぶりに蒲郡北部小を会場として盛大に行うことができました。「盛大に」と冠をつけられるのは、三教研という教育研究組織のおかげだと感謝しています。「盛大に」とは、大会当日だけの「派手に」を意味するのではありません。「継続的な研究性と研修性の高さを誇れる」という意味です。

蒲郡市は小・中で全二十校です。各校の音楽主任を中心に音楽部員三十名弱で研修会や研究会を重ねてはいますが、もし、それだけでしたら、井の中の蛙的な学習指導になっていたでしょう。四十五年ぶりといえども、三河の音楽教育として授業を公開し、子どもの姿で研究の成果を発表できたのは、三教研音楽部会が母体となっているからです。各市町村から集まる委員の研修や、誰でも参加できる夏季研修会を毎年実施してきた三教研の存在意義は大きいのです。研究収録の発刊は、三河教育の足跡と道標になっています。

昭和五十六年発行の『三河教育研究会二十年誌』にこう書かれています。「昭和二十九年八月、蒲郡市で設立総会が開かれ、全三河音楽教育研究会という名称で発足した。現音楽部会の前身である。昭和三十六年に、他教科とともに三教研の傘下に入ったとき、三教研音楽部会として再発足した。県大会のもち方は、①公開授業、②研究発表、③研究演奏、④講評、という流れが多かったが、昭和五十一年度豊橋青陵中では分科会に重点を置いた大会で注目された。」とあります。その中でも私は、「参加者に実際の授業の様子を見せ、三教研の姿勢を示し」の一節に敬服します。音楽に限らず、全教科において先人の努力に感謝し、三教研の姿勢を示すという心意気を引き継ぎたいと思います。

# つながりを土台に

刈谷市立住吉小学校
山田　利恵子

ある朝、低学年の子どもが職員室に来ました。登校途中に転んで、けがをしたようでした。うつむいて泣いているその子に声をかけ、背中をさすりました。しばらくすると、小さな声でとぎれとぎれに、転んだ時の様子を話し始めました。その時、担任が「転んじゃったかあ。」と言いながら、職員室に入ってきました。その明るく元気のよい声が聞こえた瞬間、その子の顔がすっと上がったのです。そして、にこっと笑いかける担任の顔を見上げ、笑ったのです。目にはいっぱい涙をためたまま…。子どもがつらいとき、悲しいとき、先生がいることで、子どもの顔が上がり、泣き顔が笑顔に変わる。そのような子どもと教師との温かなつながりを土台にした教育の中で、子どもは、心豊かに育っていくのだと思います。

三河教育研究会においても、多くの先輩方との、また、会員同士の確かなつながりを土台に、よりよい教育を目指し、実践が積み重ねられています。

「三河のすべての子どもたちに、三河の教師による、優れた教育を保障する。」という思いを胸に、多くの仲間とともに、子どもたちの「生きる力」を育んでいきたいと思います。

# 豊かな「表現力」を育成するために

新城市立八名中学校
村　田　寛　真

「表現の友」という刊行物は、中学校国語科の「話す・聞く・書く」の内容に即して作られた補助教材です。教科書の単元に合わせて活用できるページと、読書感想文や詩など、作文関係に役立つページとで構成されています。

恥ずかしながら、私は、本年度編集に携わらせていただくまで、その存在を知りませんでした。手に取り中を見てみると、作文やスピーチに役立つページが多くあり、新たな授業のイメージが次々と湧くものばかりでした。そんな過去の先生方が作られたすばらしい教材を、さらによいものにできないかと細かい部分まで目を通し、生徒がより使いやすいものに本年度改良してきました。また、他地区の先生方との意見交換で自己の研鑽を積むこともできました。

Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０の到来により、これからは今まで以上に機械を通して他者と交流する社会になると思います。だからこそ、自分の言葉で、表情で、豊かに表現できる生徒を育成しなければなりません。多くの学校に「表現の友」が活用されることを願います。

## 校介研究紹

# 自分が好き、仲間・学校が好き、地域が好きな子供の育成

## ―「学級力向上」を基盤とした「あたたかい授業」を通して―

知立市立八ツ田小学校

本校は、昨年度より知立市教育委員会の研究委嘱を受け、「自分が好き、仲間・学校が好き、地域が好きな子供の育成―『学級力向上』を基盤とした『あたたかい授業』を通して―」をテーマに、令和元年十月三十一日、研究発表会を開催しました。

**一　主題設定の背景**

本校では、外国にルーツのある子供や様々な生活環境のもとで暮らす子供が増え、自分の考えに自信がもてなかったり、思いをうまく表現できなかったりする姿が見られるようになりました。そこで、居心地のよい学級風土を築き、子供たちが仲間や地域の人と関わる授業を展開することで、自信をもち、自尊感情が高まると考えました。

二人で話したら　考えがまとまったよ

**二　研究の概要**

学級づくりでは、「学級力向上プロジェクト」を取り入れ、安心して発言できる学級の雰囲気づくりに努め、自分たちの学級は、自分たちで改善していこうという取り組みを積極的に進めました。

また、授業づくりでは、子供同士の肯定的反応、ハンドサインを使った「つなげる発言」、教師による発言の価値付け等を導入しました。子供同士、子供と教師が認め合う「あたたかい授業」を展開することで、子供たちが「分かった」「できた」「意見が役立った」と感じられるようになりました。

さらに、総合的な学習の時間、生活科、社会科、行事等を通して、地域の方と接する機会を多く取り入れることで、地域を愛する心情が高まったり、地域の役に立つ充実感を味わったりする様子が見られるようになりました。

（文責・大山　和則）

**私の研究**

## 問題解決のための見通しをもち，根拠をもとに考察できる生徒の育成
### ― 粒子モデルを用いた理科の実践を通して ―

豊田市立足助中学校　本藤　祥一朗

**一　はじめに**

理科の授業において、疑問に感じたことや不思議だと思ったことを、主体的に問題解決していくことの楽しさを味わってほしいと考え、中一「物質のすがた」の単元の授業実践に取り組みました。

目に見えない粒子の世界を、具体物や粒磁石を用いた粒子モデルで表現することで、自分の考えに根拠をもてるように工夫しました。

**二　授業の実際**

小単元のはじめに、物質の性質を学習し、調べるための技能を定着させました。その上で、既習の知識を活用させる場面として、①「鉄粉と食塩」②「酸素と二酸化炭素」③「水とエタノール」の混合物を分ける授業を設定しました。

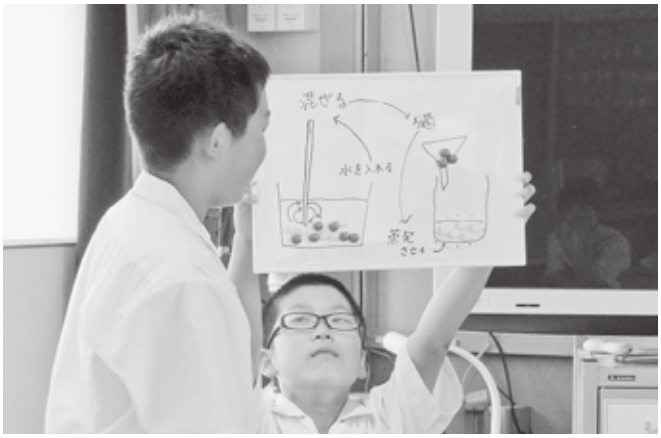
課題①では、「鉄を磁石でくっつける」などの実験方法を考えていましたが、実験結果の見通しがもてず、うまく分けられない班がありました。そこで、問題解決の見通しがもてるように、ワークシートに手順を整理して記入させました。

課題②の段階では、「石灰水に入れると二酸化炭素だけ溶けるから」と二酸化炭素と酸素の性質の違いをもとに、実験方法を考え、粒子モデルで説明する場面もありました。

課題③の段階では、水とエタノールの混合物の蒸留を行い、定量ずつ三本の試験管に集めました。集めた液体について、実験結果と粒子モデルを結び付けながら考えることで、一本目の試験管にはエタノールが多いことを説明できました。

**三　おわりに**

生徒の感想には、「実験してみて、予想とどこがどう違ったか振り返ることが面白かった。」と問題解決の楽しさを感じている意見がありました。今後も、理科の楽しさを感じさせられる授業づくりを工夫していきたいです。




粒子モデルを操作して説明する生徒

# 教室の窓から

## 東日本大震災から九年
## 碧南―釜石　九百kmの絆

碧南市立棚尾小学校
上村　秀幸

大型トラックを見送る子どもたち。今年も岩手県釜石市立釜石小学校に向けて「友情米」と「友情芋」を送る季節がやってきました。本校の児童・職員は、九年前に起こったあの地震と、津波の恐ろしさをこの時期になると思い出します。

平成二十三年三月十一日（金）十四時四十六分十八秒、宮城県沖百三十km、深さ二十四kmを震源とするマグニチュード九の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生。津波などにより死者・行方不明者一万八千四百二十九人という多くの犠牲者が出ました。そんな中、釜石市は、小中学生の生存率九十九・八％という高い数字を残し、「釜石の奇跡」として全国に知られるようになりました。

本校が釜石小学校と交流を始めたのは、震災直後の平成二十三年度。被災地のために何かできることはないかと考えられたのが、本校の子どもたちが育てている米と芋を支援物資として送ることでした。

米は、五年生が五月に田植えをして、十月に稲刈りを行い「友情米」として毎年約三百kg、芋は、五月に一年生と六年生がさつま芋の苗を植え、十月に芋掘りをして収穫し、「友情芋」として毎年約百kgを送り続けています。

復興は進み、人々の生活状況も変わりつつある中、支援物資としての米や芋はもう必要ないのかもしれません。しかし、この震災は、現在の六年生でも四歳頃の出来事で、子どもたちの記憶の中から消えようとしています。今後は、「友情米」や「友情芋」が、釜石小学校との交流の架け橋となり、地震や津波の怖さ、自分の命を守ることの大切さを教えてくれた、東日本大震災の記憶を風化させないことに役立ってくれるのを願いたいと思います。

友情米・友情芋を見送る子どもたち

# 支部トピックス

## 豊橋支部

### イマージョン教育コース開設

**豊橋市立八町小学校**

本校は、『みんななかよく　力いっぱい』の校訓のもと、「ハッピー・ハッチョウ」を合い言葉に、「笑顔」を大切にした教育活動を展開しています。

各学年一クラスで総児童数百八十八名の学校ですが、令和二年度からは、定員二十名程度のイマージョン教育コースが開設され、通常学級一クラスと合わせて、各学年二クラスとなります。

イマージョン教育コース開設の目的は、「英語のコミュニケーション力を自分の長所として生かし、グローバル社会で活躍することができる子どもを育成すること」です。

イマージョン教育とは、「未習得の言語を身につける学習方法のことで、目標とする言語で教科を学び、その言語に浸りきった状態（イマージョン）での言語習得を目指すもの」です。

本校のイマージョン教育コースの授業では、文部科学省教育課程特例校の認可を受け、学習指導要領の内容を、英語を用いて行います。国語と道徳以外は、英語を用いて授業を進めますが、児童の発達段階や教科に応じて、日本語の支援も行っていきます。

本校が「特任校制」の対象校も兼ねているため、入級対象者は、令和二年度に豊橋市内在住の小学生（帰国子女、外国籍児童を含む）です。

今年度は、試験的に三年生の算数の授業において、イマージョン教育コースが設定され、十一名が通常学級で、十七名がイマージョン教育コースで学んでいます。

創立明治六年、約一世紀半の歴史と伝統を誇る本校に、新たな一ページが加わります。

（文責・佐藤　充宏）

9月24日　公開授業及び入級説明会

## 安城支部

### 安城ふれあいスピーチ広場の開催

**安城市立全小中学校**

十月二十六日（土）に市民会館サルビアホールにおいて「第二十五回安城ふれあいスピーチ広場」を開催しました。この会は、安城市教育委員会と安城市教育研究会の共催で、五年に一度、開催しています。

「聞いてよ　わたしたちの思い」をテーマに、市内各小中学校から参加した二百七十六名の子どもたちが経験などから生み出された思いを言葉で伝え合いました。内容は、国語科の学習を生かしたプレゼンテーションやフリートーク、パネルディスカッション、群読などです。

表現力の育成を願って指導した国語部員、効果的な映像演出をした情報教育部員など、市教職員と市内の子どもたちが力を合わせて会を創り上げました。当日は保護者や教職員など、千名を超える参観者にご来場いただきました。会場には、参観者からの大きな拍手と温かい笑顔があふれ、出演者と観客で一体感のある会になりました。参観者からは、「素晴らしい表現力に感動した。」「一所懸命に伝える子どもたちの姿が素敵だった。」など、好評でした。出演した子どもたちは、「大勢の人の前で考えを伝えられて自信がついた。」「またやりたい。」と、達成感や充実感を味わうことができました。

安城ふれあいスピーチ広場の活動は、話すこと・聞くことの技術を身に付け、お互いの考えを、認め合う行事になりました。今後も人と人とのつながりを大切にしながら、言語活動の指導法を工夫していきたいと思います。

（文責・杉浦慎二郎）

自分の言葉で考えを伝え合う出演者

# 学校自慢

## 地域の宝

### 設楽町立田峯小学校

本校は、新城市と隣接する愛知県の北東部にあります。昭和二年に建設された赤い屋根の木造校舎が、文化庁より登録有形文化財に指定されています。今も当時のたたずまいを残し、訪れた人たちが景観の美しさにカメラを向け、昔の学校の造りに懐かしさを感じてくれます。昔を映すこの校舎は、地域の宝物です。

学校の周りは、豊かな自然に恵まれ、ビオトープ活動、山菜採り、親子茶摘みなど、地域の環境の中で、地域の方々に教えていただきながら、元気に学んでいます。自然の中で、生き物や植物を手に取る姿には、たくましさを感じます。また、地域の田峯観音の大祭では、奉納歌舞伎が行われています。地域の方々にご指導を受けて奉納する子ども歌舞伎は、祭礼の目玉の一つです。子どもたちは、地域の宝として大切に育まれています。

青い目の人形と聡一先生と全校児童

正面玄関から校舎の中に入ると、もう一つの地域の宝である「青い目の人形」が、お客さんをお迎えします。「青い目の人形」は、昭和二年に友好の証としてアメリカから贈られたものでしたが、戦時中、敵国の人形ということで、処分されるところを当時の鈴木校長先生がかくまい、難を逃れました。昭和四十五年に発見され、学校・地域のマスコットとして愛され、平成二十八年度まで地域ぐるみで国際交流が進められました。

今年度は、鈴木校長先生のご子息・聡一先生から、当時のお話をお聞きしました。先生は、子どもの頃、田峯小学校にも在籍されました。人形が隠される前日に一緒に過ごしたこと、当時の学校や戦争のことなど貴重なお話をしてくださいました。そして、音楽の教師である聡一先生の指揮のもと、青い目の人形の歌を全校児童十一名で一緒に歌い、学びと親交を深めました。

（文責・原田　勝宏）

## いつも熱く　ずっと熱く

### 幸田町立幸田中学校

幸田町の中心部に位置する本校は、教育目標に「『いつも熱く　ずっと熱く』生きる生徒の育成」を掲げ、夢を育む活動、折れない心を鍛える活動を進めています。今年度は、弾力的な教育課程の創造を可能とする「ＫＦＴ」を導入し、ダイナミックな教育活動を展開しました。その一端の防災・安全教育「釜石の奇跡に学ぶ」プロジェクトを紹介します。

「守られる人から守る人へ」本校の防災教育のスローガンです。大災害が起きたとき、地域の一番の働き手は中学生です。小学生の弟妹の引取訓練、避難所・仮設トイレ設置訓練などを通し、安全に関する知識を深め、とっさに状況を見極め、とるべき行動が判断できるよう学習を重ねています。九月には文部科学省安全教育調査官・森本晋也氏（元釜石東中防災教育担当）の講演会を開催し、東日本大震災時や実際の避難の様子を聞きました。映像や当時の中学生の言葉は、生徒たちの心に大きな衝撃を与えました。同時に、「守る人」への決意を強くする講演会になりました。また昨年度から東日本大震災を決して風化させない、近年各地で起きている災害の被災者を勇気づけたい、元気づけたいとの思いを込め、復興支援ソング「ライジングサン」の全校ダンス、「チャリＴシャツ」の作製・販売、募金等のボランティア活動にも力を入れています。

この十一月には、三年生の有志が釜石東中学校を訪問し、ダンス・合唱交流を行い、十二万円の募金を届けてきました。釜石の地に立った三年生は、多くの人の支えや優しさを実感するとともに、全校・学区・町民の絆をより一層深め、仲間や幸田町のために、今後も頑張っていきたい、幸中生がその中心となっていきたいとの思いを強くしました。

（文責・小林　淳）

釜石東中学校との交流会
～「チャリＴシャツ」と募金の贈呈～

# 部会・各種委員会 研究大会の報告

## 社会

### 仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業〈二年次〉

愛知県社会科教育研究大会安城大会
期　日　十月二十三日（水）
場　所　安城市立安城北中学校
〈公開授業・全体会・分科会〉
安城市立安城中部小学校〈公開授業〉
参加数　四百名

公開授業では、地域教材をもとに、歴史や伝統、また、現在の地域の抱える諸問題などを取り上げた単元が構想されました。問題を見つけた子どもが、学級の仲間や地域社会に生きる人とのかかわり合いを通して学びを深めていこうとする姿が随所に見られました。また、活発に意見を交流する中で、自分の考えを分かりやすく伝えたり、仲間の考えをうなずきながら聞いたりする姿が見られました。研究公開授業の後は、小学校を五つ、中学校を五つに分けて分科会が行われました。各地区から十九の実践が提案され、参加者の熱心な協議が展開されました。

公開授業の様子

社会部会では、四年間の計画で研究主題を設定しています。第十五期の二年次にあたる今年度は、研究主題を踏まえた実践から見えてきた成果や課題が、各分科会で報告されました。「仲間とかかわり」、「よりよい社会づくりへの参画」などをキーワードとして、活発な協議が行われました。

#### 提案者として参加して

刈谷・富士松南小　梅村　大輔

小学校三年生の「来て・見て・買って　ぼくらのオリジナルストア」の実践の提案をしました。協議の中で、先生方から「スーパーと比較すると、さらにコンビニのすごさが分かってくる。」とアドバイスをいただきました。三年生にとっても、比べて学習することは、学びを深める手だてになると感じました。助言者からは、「友達の名前を振り返りに書くように意識させるとよい。」と教えていただき、振り返りも工夫すれば、子ども同士のかかわり合いが生まれることを学びました。

## 技術・家庭（中学校）

### よりよい生活に向けて、最適解を求め続ける生徒の育成

―生活の中のグッドデザインを追い求める授業づくり―

愛知県中学校技術・家庭科研究大会
三河教育研究会技術・家庭部会
研究集会　西尾大会
期　日　十一月八日（金）
場　所　西尾市立西尾中学校
参加者　二百八十六名
研究発表・公開授業など
技術分野
ありがとう　先輩への　応援花
～プランターと花で飾る卒業式～
家庭分野
目ざせ　快適生活！
～西中でより良衣（よい）生活を送るためにできること
ウォームビズ編～
助言者　愛教大准教授　磯部　征尊　先生
愛教大教授　青木香保里　先生

技術分野の公開授業では、グループ活動で解決できなかったことを、さまざまな視点・側面を通して学級全体で話し合い、よりよい作品づくりに向かう姿が見られました。家庭分野の公開授業では、実験を通した話し合い活動により、本当に暖かい服装について、根拠をもちながら話す姿が見られました。また、生徒会が推奨するウォームビズについて、情報提供しようと、学校づくりに積極的に関わっていく姿が見られました。

協議会では、グループ討議を通して、本時の内容についての意見はもとより、各学校の実践を聞くことができ、明日からの授業の活力となりました。

研究協議の様子

#### 新学習指導要領完全実施に向けて

岡崎・矢作中　淺川　晶紀

「よりよい生活に向けて、最適解を求め続ける生徒の育成」をテーマに研究を進めてきました。本年度の研究会では、問題の条件や場面が変わっても、これまでの学習を生かし、最適解を求めようとする生徒の姿が見られました。また、内容にとらわれない単元構成は、新学習指導要領を見据えた挑戦的なものでした。来年度、さらに踏み込んで研究を進めていこうと考えています。

## 学校図書館

### 主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館

愛知県学校図書館研究大会
期　日　八月二十三日（金）
場　所　名古屋学院大学
　　名古屋キャンパスしろとり
参加者　三百九十三名
全体会
　記念講演「物語のある世界
　　－読む・書く・楽しむ－」
　講　師　小説家・椙山女学園大学教授
　　堀田　あけみ　先生
分科会
　①～⑥　研究発表
　読書センター、学習・情報センター
　としての学校図書館
　（小学校・中学校・高校・特別支援）
　⑦～⑨　ワークショップ
　1　和装本をつくってみよう
　　－岩瀬文庫体験講座－
　2　ＮＩＥ「教育に新聞を」の発信が
　　できる図書館担当者を目指して
　3　高校生ＰＯＰコンテストに学ぶ
　　～書店ＰＯＰの意義や作成上のポイント～

全体会の講演会では、『１９８０アイコ十六歳』や『発達障害だって大丈夫』で知られる小説家・大学教授の堀田あけみ先生をお迎えしました。創作の裏側や、教授の視点から見た大学生の現状を知ることができる講演でした。参加者からは、「多角的な視点からお話しいただき、大変魅力的な講演でした。」との声が寄せられました。

午後からは、九つの分科会が行われました。①～⑥の研究発表では、テーマに基づいて、小・中・高・特別支援の先生方から、実践を踏まえた提案がありました。⑦～⑨のワークショップは、今後の活動に役立つと好評でした。

講演される堀田先生

### 学校図書館へ行こう

田原・泉小　本田　充弘

中学校部会の学習・情報センターの分科会に参加しました。子どもが、読書だけではなく、学習のために学校図書館へ足を運ぶようになるためには、質・量ともに充実した資料が必要です。適切な資料があれば、調べたいという意欲も高まります。子どもにとって必要な資料を効果的に収集・選択できる環境づくりが大切だと改めて感じました。地域の公共図書館の配本事業を利用したり、学校図書館のホームページを作成したりして、国語科だけでなく、他教科で図書室を活用した実践は、ぜひ、自分の学校でも取り入れていきたいと思います。

## 統計教育

### 確かなデータにもとづいて考える力を育てる統計教育

愛知県統計教育研究協議会
　　研究発表会・講演会
期　日　十一月二十七日（水）
場　所　愛知県図書館
参加者　七十五名
研究発表会
　小　牧・桃ヶ丘小　倉知　憲　先生
　名古屋・楠中　伊藤　幸恵　先生
　知　立・知立中　榊原　健　先生
指導高評・講演会
　「ＡＩ戦略を視野に入れた
　　統計教育の展開について」
　講師　愛知教育大学准教授
　　青山　和裕　先生

研究発表会では、尾張地区からは、地形と降水量の関係を複数の雨温図をもとに考えさせることで、資料を効果的に活用した社会科の実践。名古屋地区からは、水圧と浮力の関係について、実験を通して集めたデータから読み取り、その結果をもとに浮沈子を作製した理科の実践。三河地区からは、ストップウォッチをちょうどの時間で止めることができる人の特徴について仮説を立て、傾向を読み取るために箱ひげ図を活用した数学科の実践がそれぞれ提案されました。どの実践も、確かなデータや情報をもとに考える力を育てる子どもの育成を目指した提案となりました。

愛知教育大学の青山和裕先生からは、これからのＡＩ時代を生き抜いていくために、統計教育の担う役割の重要性についてご講演をいただきました。また、「まばたきの回数」の実験を取り入れ、実際にその場でデータを送信し、グラフを用い、共有するなど、統計教育の今後の活用方法も教えていただきました。

青山先生の実験に夢中になる様子

### 研究発表会・講演会に参加して

碧南・新川中　岡田　将志

人工知能（ＡＩ）は私たちの身近な商品・サービスに組み込まれはじめ、日々、多くの人がＡＩの存在や便利さを感じる時代がやってきました。今こそ、積極的にＡＩを活用しようとする人材の育成が求められており、これからの統計教育にとっても大きな課題となっています。

新しい時代の創造に向けて、私たち教師も主体的にＡＩと向き合い、ともに進化していきたいと思いました。

## 生徒指導

### 自己指導能力と社会性を高める生徒指導を目指して

愛知県生徒指導研究大会
期　日　十一月十二日（火）
場　所　岡崎市民会館
参加者　六百名
研究発表
　社会的自立に向けた
　　不登校生徒の支援　他
指導高評
　愛知県教育委員会
　義務教育課　主席指導主事
　　小田　英宣　先生

本年度は、「自己指導能力と社会性を高める生徒指導を目指して」というテーマの下、愛知県生徒指導研究大会が開催され、研究発表では、尾張・三河・高校で、それぞれ一名の先生が発表されました。

三河ブロックからは、岡崎市立竜海中学校の蟹江陽平先生が、不登校生徒に段階的な目標を設定し、教師との関わりや学級経営を工夫することを手だてに、たくさんの人と関わり、目標を一つ一つ達成していくことで、社会性を身に付け、自らの力で歩んでいく生徒の育成を図った実践が発表されました。

また、紙上発表として、安城市立二本木小学校の小林裕幸先生が、「豊かな心と社会性を育む生徒指導を目指して」、東栄町立東栄中学校の篠原由忠先生が「生活習慣を見直し、よりよい自分になろうとする生徒の育成」と題した実践について発表されました。

発表を受けての研究協議

### 人との関わりを大切に

岡崎・常磐中　太田　幹彦

研究大会では、小中高の実践が発表・協議されました。どの実践も、特に「人との関わり」を大切にした活動が中心となっており、児童・生徒の変容や成長の様子がよくうかがえました。教師が児童・生徒に願いをかけ、様々な手だてを講じることによって、一人一人の自信や自己有用感、自己肯定感が高まり、今後のよりよい生活や、主体的な行動へとつながることを強く感じました。

## 英語（外国語活動）

### 心豊かなコミュニケーションをめざして

東海北陸公立中学校英語教育研究会
期　日　八月八日（木）・九日（金）
場　所　ライフポートとよはし
参加者　六百五十名
研究発表・研究協議
　四分科会（小学校二、中学校二）
記念講演
「新中学校学習指導要領で求められる、英語授業改善のあり方」
　講師　文部科学省初等中等教育局視学官　直山木綿子　氏
全体会講演
「小学校から中学校への英語教育の接続」
－どう送り出し、どう引き継ぐか－
　講師　愛知県立大学教授　池田　周　先生

本年度は二十一年ぶりに三河地区で、英語（外国語活動）部会の東海北陸大会が開催されました。ライフポートとよはしには三河の先生方だけでなく、県内各地区、そして東海北陸各県より多数の参加者が集まり、盛大に開催することができました。

開会式後、文部科学省の直山木綿子氏にご講演いただきました。小学校での英語の教科化を踏まえ、小学生時代に慣れ親しんだ（スモールトークなどの）英語を中学校の授業でも活用することで、小中連携を意識した授業改善ができることを教えていただきました。

三河各地区の実践報告がなされた分科会、池田周先生による全体会講演も大盛況で、それぞれの先生方の提案に対して、多くの意見が飛び交いました。

講演される直山木綿子氏

### 東海北陸大会に参加して

豊橋・南部中　中島　安美

分科会では、豊橋市立高豊中学校の杉山先生による「和食のよさを英字新聞で発信しよう」の実践報告がありました。文構造を理解させるために、語順ブロックを活用した手だてが紹介されました。参観者からは、今までにないアイデアで新鮮だという感想が述べられました。多くの先生方の実践から学んだことを、今後の授業に生かしていきたいと思います。

## へき地教育

### ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成

東海北陸地区へき地・複式・小規模学校教育研究大会愛知大会
愛知県へき地・複式・小規模学校教育研究大会
期　日　十月三十一日・十一月一日
場　所　岡崎市民会館　各分散会場
参加者　延べ七百七十四名
記念講演　「水族館から学べること」
竹島水族館長　小林　龍二　氏

初日は、開会行事、基調報告の後、岐阜県加茂郡東白川小学校、三重県熊野市立飛鳥小学校、そして石川県小松市立那谷小学校の研究発表がありました。

記念講演では、弱小水族館を人気水族館にしたお話を通して、へき地小規模校も「弱みを強みにできる」という勇気を竹島水族館の小林館長からいただきました。

翌日は、日間賀島小学校・中学校他、三つの分散会場に会場を移しました。

豊田市立花山小学校は「仲間に学び、自らを育む子ども～地域、異学年・学級の仲間とつながる花山っ子～」を研究主題とし、地域素材を取り込んだ生活科や総合的な学習の時間、および少人数の特性を生かした学び合いを中心とした教科学習の創造を発表しました。

宮崎小アトラクション　～一輪車～

岡崎市立宮崎小学校は「ふるさと宮崎で学び、新しい時代をたくましく生きぬく子供の育成～子供の語り合いを引き出し、深い学びにつなげる教師支援の工夫～」として、互いに考えを語り合い、聞き合う中で、自他の思いを大切にした考えを導き出せる児童を育て、将来をたくましく生きる力を育んだ成果を発表しました。

### 花山小の研究発表会に参加して

豊田・則定小　大竹　正美

へき地教育を外部に発信する重要性を感じました。地域以外の人に伝えたり、多くの人と交流したりする活動を通して、視野を広げ、ふるさとを見直す機会としたいです。則定小では、郷土の偉人『鈴木正三』や地元産の野菜を販売する『まごころ市場』について幅広く発信していきます。

## 令和元・二年度　実践事例集

# 『新しい時代に求められる教育』

### ― 主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業実践 ―

調査委員会

三河教育研究会では、調査委員会を中心にして、諸事業の推進や、諸活動の充実を図るために主題を設定し、二年間の調査・研究を進めています。平成二十九年度から三十年度にかけては、「これからの道徳教育に向けて―自他を大切にし、心豊かに生きる子の育成―」を主題とし、実践事例集にまとめてきました。

令和元年度は、新たなテーマを設定し、令和元年度から二年度にかけての二年間を通した実践の成果と課題を、学校現場へ還元していきたいと考えています。

そこで、教育の今日的な課題や、三河各地の学校現場の実情から、主題および副題を検討していくために調査をしました。各支部からは次のようなキーワードが寄せられました。

**【地区から寄せられたキーワード】**
- 「主体的・対話的で深い学び」
- 「見方・考え方」「資質・能力」
- 「地域に開かれた教育課程」

このようなキーワードから、新学習指導要領完全実施を目前に、深い学びを実現する授業の在り方について、関心の高さがうかがえます。私たちは、先進的な実践研究を推し進め、これからの授業の在り方を三河の教育が示していくといった自負をもって研究を推進していきたいと考えています。

そこで本年度は、育成すべき資質・能力を明確にし、各授業・単元の中で位置付けて実践していくことで、深い学びの実現を図る実践を推進していきたいと考え、主題を「新しい時代に求められる教育 ―主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業実践―」としました。

本実践事例集は、三河の各支部における、小学校・中学校の実践事例を掲載していきます。各地区の価値ある実践を具体的な形で残すことで、私たち教員の資質・能力のさらなる向上に結び付けていくことができるようにしていきます。

令和三年二月の発刊に向け、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

〈報　告〉

# 授業力養成講座

## ～中堅教員のミドルリーダーとしての資質向上をめざして～

授業力養成講座は、ミドルリーダーの育成のため、各校の中堅教員を対象に、授業の在り方や参観の仕方、協議会の進め方などを研修できる機会として、平成二十二年度より開催しています。講座は、講師を招聘し講義形式で進める授業力養成講座Ⅰと、実際の授業を参観し、授業協議会を通して授業の在り方を学ぶ授業力養成講座Ⅱを行いました。

### 授業力養成講座Ⅰ

【東三河】
○期　日　八月二十一日（水）
会　場　蒲郡市民会館
講　師
算数科　愛知教育大学附属岡崎小学校長　加藤　嘉一　先生
道徳科　元蒲郡市立形原中学校長　足立　泰敏　先生
受講者　六十名

【西三河】
○期　日　八月二十日（火）
会　場　豊田市教職員会館
講　師
外国語　刈谷市立小高原小学校長　犬塚　章夫　先生
数学科　岡崎市立矢作西小学校長　深津　伸夫　先生
道徳科　西尾市立西野町小学校長　石川　雅春　先生
受講者　六十名

本年度も魅力あふれる講師の先生方をお招きし、授業づくりに対する実践的な理論について学びました。また、実際の教材を用いた授業構想や、授業場面での具体的な教師支援の在り方などを学ぶ場面もあり、二学期からの授業で役立つ価値ある学びを得ることができました。

具体的な例を挙げながら講義をする石川雅春先生

【受講者の声】

・道徳の授業をどうすればよいかと考えながら講座を受けたが、授業の柱となっている子どもの生活を捉え、受け止め、授業の中に浸透させていくことが大切だと感じた。子どもが自分を見つめられる授業づくりをしていきたいと思った。

・単元構想では、最終的に子どもに取り組ませたい活動、つけさせたい力を明確に定めることが大切だと分かった。見通しをもつことは、評価を考える上でも大切なことだということも学ばせていただいた。

### 授業力養成講座Ⅱ

【東三河】
○期　日　十月二十九日（火）
会　場　蒲郡市立蒲郡南部小学校
授業者　杉本　芳依　先生（算数科）
講　師　加藤　嘉一　先生
受講者　四十五名
○期　日　十一月八日（金）
会　場　蒲郡市立三谷中学校
授業者　木村　友則　先生（道徳科）
講　師　足立　泰敏　先生
受講者　四十二名

【西三河】
○期　日　十月十八日（金）
会　場　豊田市立東保見小学校
授業者　市川　卓奈　先生（外国語）
講　師　犬塚　章夫　先生
受講者　二十九名
○期　日　十一月十二日（火）
会　場　みよし市立三好丘中学校
授業者　佐々　祐資　先生（数学科）
講　師　深津　伸夫　先生
受講者　三十二名
○期　日　十一月二十六日（火）
会　場　豊田市立若林西小学校
授業者　杉田　俊子　先生（道徳科）
講　師　石川　雅春　先生
受講者　二十九名

東三河二名、西三河三名の先生方の授業を参観し、授業研究協議会を通して、授業の在り方について議論しました。

白熱した議論を交わす受講者

【受講者の声】

・どの講義でも、子どもの思いに寄り添うことが大切だと、見て聞いて学ぶことができた。今後は授業に限らず、より子どもたちの思いを大切にしていきたいと思った。

・中堅教員として、自分の授業スタイルが確立してきた中で、改めて自分の授業を見つめ直すきっかけとなった。今回学んだことを、他の教員にも伝えていきたい。

# 教育随想(85)

## 愛故創新

田原市教育委員会　教育長
**花井　隆**

「山路を登りながら、こう考えた。
智に働けば角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。（中略）束の間の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職ができて、ここに画家という使命が降る。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊い。」

明治の文豪夏目漱石の「草枕」の冒頭です。漱石が千円札から消えること三十年、最近はずいぶん存在感が薄くなったような気がします。しかし、漱石の作風でもあるリズム感あふれる軽快な文体は、声に出して読みたくなる名文の一つでしょう。

明治維新から百五十年が過ぎ、当時からすると全く想像しなかった世界が令和になった日本を覆っています。文明開化と呼ばれたその文明が、改革や革新を重ね、歴史を作っていますが、そのスピードに只々驚くばかりで、どう対応したらよいかついていけない事態に陥っています。スマホ全盛、キャッシュレス、人工知能AI時代到来と、時代は大きく変わりつつあります。

この年末には、来年度の大学共通テストの英語の民間試験と、国語と数学における記述式問題の導入が見送られることになりました。多くの関係者の心配や懸念に応えることのない遅きに失した発表でした。今後は反省をいかした制度設計がどのようになされていくのか、私たち教育関係者はその成り行きをしっかり見ていく必要があります。

大学センター試験に関するある報告で「共通一次以来のセンター試験四十年の歴史の中で、身に付けた力として、①読解力②暗記力③正誤判断力④読む力を挙げる一方、失った力として①創造力②想像力③確固たる人間関係を構築する力④小説を読む楽しさがあるとし、何を学ぶのかだけでなく、どう学ぶのか、何のために学ぶのかという根源的な問いを掲げることが重要である」とあり、失った力の大きさを痛感させられるものでした。

新学習指導要領がこの四月から本格実施されます。移行期間のなかで、英語教育やプログラミング教育の試行がなされてきました。今後も学習指導要領を受けた教育活動は、「生きる力（生き抜く力）」の育成に向けて行われていくでしょう。そうした意味で、改めて見直すことが大切な事柄が多くある中で、私自身三つの事柄に絞って言及したいと思います。

その一つ目として、「夢や理想を追求する心意気」です。知識や技能を習得するなかで、「何のために学ぶか」を考えていく必要があります。テーマやねらいを明確にして問い続ける学びを積み重ねることや、一人一人の未来につながる学びの必要性を感じます。

二つ目として、文学、音楽、美術などを尊重した「子どもたちの感性を磨き育む営み」が重要です。教師が意図的に企画する自然、社会、文化に直接触れる体験は生涯の宝となる可能性があります。

三つ目は、変化が激しく情報が行き交う社会を生き抜くための「コミュニケーション能力の育成」です。多様な人々と仲間となって協力して進めば、掲げた目標の達成はより可能となるでしょう。

これからの社会は今まで以上に複雑多岐となり、ストレスやプレッシャーの増大が容易に想像されます。こうした社会をたくましく生きる方法として、「温故知新」に象徴される考え方を尊重して、私自身「愛故創新」を掲げ、今までの学びを問い直しつつ、さらなる「自分探しの旅」を続けていきます。過去や歴史に学びつつ、新たな出会いを求め、未来を志向し、幸せな人生や豊かな生き方を求める求道者、何が大切かを見極める探究者であり続けたいと思います。

**◆令和元年度各部会・委員会刊行研究集録**

国語　「生きてはたらく言葉の力を育み、深く学び合う授業」第31号
社会　社会科の現代像を求めて　第29号
算数数学　研究紀要　第37号
技術・家庭　「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」第36集
養護教諭　「よりよい生活に向けて、最適解を求め続ける生徒の育成」
総合的な学習　令和元年度研究集録
統計教育　「自ら探究し、協働的に学び合う総合的な学習の授業」
生徒指導　愛知の統計教育　第38号
へき地教育　生徒指導
第33回東海北陸へき地・複式・小規模学校研究大会
愛知大会報告書

### 編集後記

この一年間、貴重な原稿をお寄せいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。また、「教育みかわ」をご愛読くださいました皆様、ありがとうございました。皆様にとって、様々な情報を得やすく、日々の教育実践に役立つ会報誌となるよう、一層取り組んでまいります。

**◆表紙の写真◆**
届け！雄勝の空へ
撮影　岡崎市立葵中学校　岩野　慎也　先生

**◆カット◆**
愛知教育大学附属特別支援学校　神谷　宜欣　先生